

Nissha Today

Empowering Your Vision



第96期 報告書

2014年4月1日 - 2015年3月31日

日本写真印刷株式会社

証券コード 7915

社長メッセージ 01

トピックス 04

特集 第5次中期経営計画 05

業績ハイライト 07

会社概要/株式の状況 09

株主さまアンケート結果のご報告 10

社長メッセージ

株主のみなさまには平素より格別のご支援、ご鞭撻を賜り御礼申し上げます。
2015年3月期の実績と2016年3月期以降の見通しについて、
代表取締役社長 兼 最高経営責任者の鈴木順也よりご説明申し上げます。



2016年3月期から新たな中期経営計画の運用をスタート。事業ポートフォリオの組み換えを完遂し、持続的な成長を目指します。

鈴木順也

代表取締役社長 兼 最高経営責任者

Q はじめに2015年3月期の実績について説明してください。

A デバイス事業が業績を牽引し、当期純利益は過去最高の水準となりました。

当社グループが主力とするスマートフォンやタブレット端末などのコンシューマー・エレクトロニクスの分野では、製品需要の急激な変動や製品・サービスの低価格化が常態化しています。このような状況に対応するために、当社では製品需要に応じた柔軟な生産体制の構築を急ぐとともに、生産効率の改善やあらゆるコスト削減に努め、キャッシュ・フローの最大

化に取り組んできました。

2015年3月期は、デバイス事業における静電容量方式タッチパネルが業績を牽引し、売上高は前期比7.1%増の118,775百万円となりました。また、デバイス事業における生産効率の改善、円安基調の継続によって、利益面では前期比で大幅増益となりました。なお、当期純利益は11,245百万円と過去最高の水準となりました。この利益水準に鑑みて、2015年3月期の期末配当については前回の予想から5円増配し、1株当たり15円の配当とさせていただきます。これにより年間の配当は1株当たり20円となりました。

Q 第5次中期経営計画がスタートしました。
この概要を教えてください。

A 事業ポートフォリオの組み換えを完遂し、
新たな成長基盤を確立します。

先の第4次中期経営計画（2013年3月期～2015年3月期）においては、タッチパネルを主力製品とするデバイス事業の躍進に加え、円安の追い風もあり、この間の課題であった財務体質の改善に目途をつけることができました。2015年3月末には、財務の安全性を示す自己資本比率は57.4%に大きく改善しました。しかし、デバイス事業は事業環境が激しく変化するコンシューマー・エレクトロニクス業界に大きく依存していることから、対象市場のポートフォリオ（構成・組み合わせ）を適正化する必要があります。また、産業資材事業と情報コミュニケーション事業は業績の回復が不十分であり、事業構造の組み換えを加速することにより収益性を改善する必要があります。

当社グループは、こうした課題認識のもと、2015年4月から事業ポートフォリオの組み換えを基本戦略とする第5次中期経営計画（2016年3月期～2018年3月期）の運用を開始しました。「印刷技術に新たなコア技術を獲得・融合し、グローバル成長市場で事業ポートフォリオの組み換えを完成させる」ことを中期ビジョンとして掲げ、当社がこれまでに培ってきた印刷技術の領域拡大に加えて、新たなコア（中核）技術を取り込む

ことで、世の中にない全く新しい価値や製品群を創出するとともに、グローバルレベル（世界規模）で成長が期待される市場への進出を図り、持続的かつ安定的な成長を実現する考えです。また、これらの取り組みの成果を測定するための経営管理指標としてROE（自己資本当期純利益率）およびROIC（投下資産利益率）を採用し、事業の収益性、資本の効率性の観点から事業ポートフォリオの組み換えを推進することとしています。

※第5次中期経営計画の具体的な内容は特集(P.5)をご覧ください。

Q 2016年3月期の見通しはいかがでしょうか？

A デバイス事業の製品需要はやや減速する
も、産業資材事業は回復に転じる見通しです。

2016年3月期は、デバイス事業において製品需要がやや減速することが見込まれていますが、産業資材事業の製品需要は自動車および家電分野を中心に増加し、この事業は増収増益を確保する見通しです。産業資材事業の復調に加え、円安基調の継続が想定されることも踏まえて、全社としては2015年3月期と同水準の売上高・営業利益を予想しています。

また、2016年3月期は、第5次中期経営計画の初年度として、事業ポートフォリオの組み換えに向けた取り組みを加速します。この4月より「ライフィノベーション事業」が新たに誕生しましたが、同事業は医療やヘルスケアなどの成長市場に

2015年3月期業績のポイント

売上高 

1,187億円
前期比 7.1%増

営業利益 

87億円
前期比 352.2%増

当期純利益 

112億円
前期比183.4%増
過去最高

期末配当金

1株当たり15円
前回予想(2015年2月6日)
から5円増配

向けた製品開発を行い、早期に新製品を市場投入していく予定です。すでに事業化されているガスセンサーの事業規模を拡大させるほか、マイクロニードルパッチ製品の開発を加速させる考えです。

情報コミュニケーション事業は、事業環境に迅速に適応することを目的として7月1日付で分社化する予定です。事業の自走力を高め、業績の回復を急ぎます。

Q 企業の社会的責任について考えを聞かせてください。

A ステークホルダーとの共生の考え方を新たなブランドステートメントに示しました。

NISSHAは、「印刷を基盤に培った固有技術を核とする事業活動を通して、広く社会との相互信頼に基づいた《共生》を目指す」という企業理念のもと、企業の社会的責任を果たします。企業理念に掲げる《共生》のあり方は、当社グループとお客さま、株主、社員、サプライヤー、地域社会などのステークホルダーがともに自らの明確なビジョンを持ち、その実現に向けて互いに影響しあい、ともに価値ある未来を創造することを意図しています。こうした当社の基本的な考え方は、

2015年4月に新たに定めたブランドステートメント“Empowering Your Vision(エンパワーリング・ユア・ビジョン)”に表現されています。

また当社では、コーポレート・ガバナンスの強化を重要な経営課題の一つと位置づけ、複数の社外取締役の選任によって経営の透明性と公正性を確保するとともに、執行役員制度の採用によって取締役会の戦略策定ならびに経営監視機能と執行役員の業務執行機能の分化を図っています。

Q 最後に株主のみなさまへのメッセージをお願いします。

A さらなる企業価値の向上に全力で臨みます。

NISSHAは、第5次中期経営計画で掲げる事業ポートフォリオの組み換え戦略の完遂にまい進します。企業価値を向上させると同時に、株主のみなさまへの還元につきましても、安定的な配当を基本方針として充実させていきたい考えです。

持続的かつ安定的な成長を実現するために、経営者・社員一同全力で臨みますので、引き続きみなさまのご支援・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2016年3月期 業績予想

(百万円)

	2015年3月期(実績)	2016年3月期(予想)	前期比	*事業別売上高(予想)		前期比
売上高	118,775	*120,000	+1.0%	産業資材	34,500	+17.1%
営業利益	8,750	8,500	▲ 2.9%	デバイス	65,700	▲ 6.5%
経常利益	12,494	8,500	▲ 32.0%	情報コミュニケーション	18,000	+0.6%
当期純利益	11,245	7,300	▲ 35.1%	その他 (ライフイノベーションを含む)	1,800	+55.4%
1株当たり当期純利益(円)	262.05	170.11	-			

トピックス

FISの水素ディテクターがトヨタ「MIRAI」に採用

当社の子会社であるエフアイエス株式会社(FIS)が開発した水素ディテクター(検知器)が、トヨタ自動車株式会社の燃料電池自動車「MIRAI」(2014年12月発売)に採用されました。燃料電池車はガソリンの代わりに水素をエネルギー源とする次世代の自動車として期待されています。「MIRAI」は世界に先駆けて発表されたため、多くの注目が集まりました。

FISが提供する水素ディテクターは、水素のガス漏れを検知する重要な装置です。この装置は「MIRAI」の内部2カ所に搭載されており、万一、水素ガス漏れが発生した場合、直ちに検知します。FISの高い技術力はお客さまからも高く評価され、2015年2月、水素ディテクターはトヨタ自動車の「技術開発賞」を受賞しました。

画像出典:トヨタ自動車



世界初の量産燃料電池車
トヨタ自動車「MIRAI」



「MIRAI」に採用された水素ディテクター

メキシコの自動車部品成形会社を買収

2015年1月、当社の子会社であるNissha USA, Inc.(ニッシャ・ユースエー/アメリカ)と同社の子会社であるEimo Technologies, Inc.(エイモ・テクノロジーズ/アメリカ)は、メキシコで自動車部品向けのプラスチック成形事業を手がけるPMX Technologies, S.A. de C.V.(ピーエムエックス・テクノロジーズ、買収時点の社名はPolymer Tech Mexico S.A. De C.V.)を買収しました。

当社の産業資材事業は、世界的な成長が期待される自動車市場に注力し、同市場の特性に合わせて、従来の輸出型の事業モデルから地産地消型の事業モデルへの移行を進めています。当社グループは既にアメリカにおいて、Nissha USAおよびEimo Technologiesを中心に成形同時加飾(IMD)製品の現地生産体制を確立していますが、今回の買収は、北米の自動車需要を支える重要な生産拠点となりつつあるメキシコ市場への進出を図る目的で実施されました。メキシコでは今後、自動車向け内装に用いるIMD製品の需要拡大が見

込まれています。当社グループは、新たに加わったPMX Technologiesに当社の独自技術を導入することで更なる成長を目指します。



芸術祭典への協賛

当社では、芸術・文化の振興に貢献するとともに地域との結びつきを深めるために、協賛活動を行っています。2015年春には、世界的な文化都市である京都を舞台とした2つのイベントに協賛しました。

■「PARASOPHIA:京都国際現代芸術祭2015」(2015年3月~5月)

PARASOPHIA(パラソフィア)は、京都市美術館の全館と京都府京都文化博物館を主会場に複数の会場を有機的に連携させた、京都初の大規模な現代芸術の国際展です。国際交流と文化の集積地・京都を舞台に世界の第一線で活躍する40組の作家が参加しました。



■「第3回 KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」(2015年4月~5月)

KYOTOGRAPHIE(キョウトグラフィ)は、多数の会場で一斉に写真作品を展示する、日本でも数少ない国際的な写真祭です。日本および海外の著名な作家や貴重な写真コレクションが、寺社や町家など趣のある歴史的建造物やモダンな近現代建築の空間など15カ所で展開されました。

タイにバンコク駐在員事務所を開設

当社子会社のNissha Industrial and Trading Malaysia Sdn. Bhd.(ニッシャ・インダストリアル・アンド・トレーディング・マレーシア)は、タイにおける販売力強化を目的として、2015年4月、バンコクに駐在員事務所を開設しました。経済成長が著しいタイにおいて、自動車・家電・化粧品などの市場向けに、産業資材事業の転写箔・フィルム製品や成形品などの販売を促進します。

特集 第5次中期経営計画

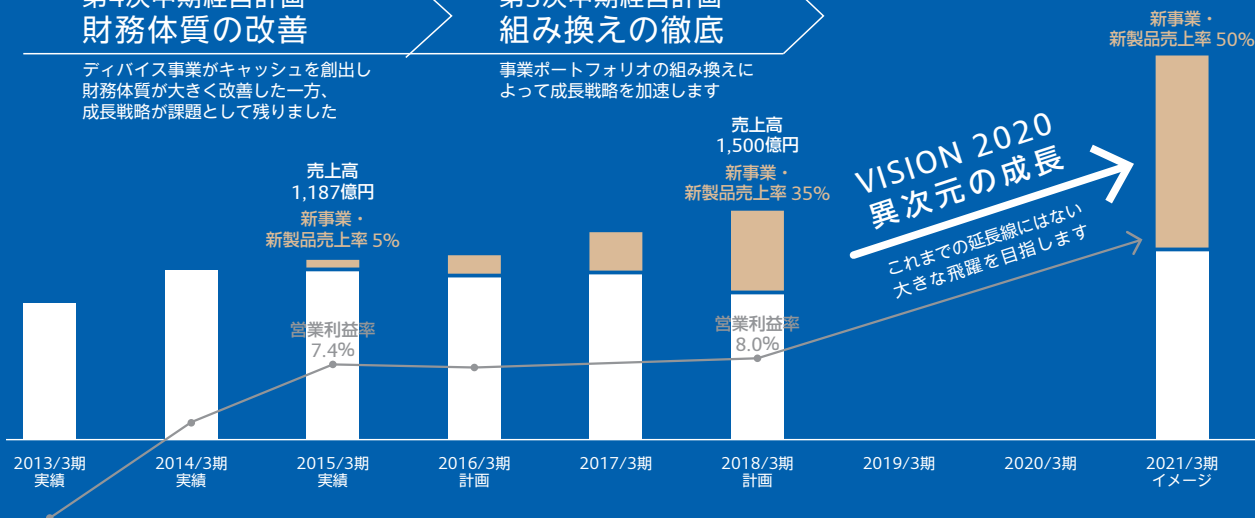
異次元の成長の実現に向けて
事業ポートフォリオの組み換えを急ぐ

第4次中期経営計画 財務体質の改善

デバイス事業がキャッシュを創出し
財務体質が大きく改善した一方、
成長戦略が課題として残りました

第5次中期経営計画 組み換えの徹底

事業ポートフォリオの組み換えに
よって成長戦略を加速します



NISSHAは3カ年(2016年3月期～2018年3月期)の「第5次中期経営計画」の運用をスタートしました。NISSHAの目指す姿とその実現のための戦略をみなさまにご紹介します。

■ 第5次中期経営計画の位置づけ

NISSHAは2015年4月から事業ポートフォリオの組み換え(構成・組み合わせ)を基本戦略とする3カ年の中期経営計画の運用を開始しました。当社はこれまで印刷技術を進化させることによって産業資材やデバイスなどへと事業領域を拡大してきましたが、今後も持続的に成長していくためには、既存事業の深掘りにとどまらず、新たな製品開発を加速させるとともに、新たな成長市場を開拓することが必要だと考えています。こうした課題認識のもと、第5次中期経営計画では新事業・新製品の売上高比率の目標を35%以上と定め、次の成長に向けた事業基盤を構築したいと考えています。

■ 第5次中期経営計画の骨子

NISSHAは第5次中期経営計画の中期ビジョン(3年後に目指すべき姿)を次ページのとおり掲げています。中期ビジョンには、当社がこれまでに培ってきた高度な印刷技術とこれに匹敵するような新たなコア技術(中核となる技術)を融合させ、世の中にない全く新しい価値や製品群を創出するとともに、グローバルレベル(世界規模)で成長が期待される市場への進出を図り、持続的かつ安定的な成長を実現したい、という強い思いが込められています。2015年3月期に当社グループに加わったエフアイエス株式会社は、当社がこれまでに保有していなかった高度なガスセンサー技術を持ち、今後成長が期待される医療やヘルスケア分野への販路も持ち合わせていました。ガスセンサー技術は当社の印刷技術と融合する大きな可能性を秘めています。第5次中期経営計画ではこうした事例にみられる取り組みをさらに加速させたいと考えています。

中期ビジョン

印刷技術に新たなコア技術を獲得・融合し、
グローバル成長市場で事業ポートフォリオの組み換えを完成させる。

中期ビジョンを実現するために、NISSHAは5つの戦略を実行していきます。

1 製品・市場ポートフォリオの組み換え

現在、当社のビジネスは特定の製品(タッチパネル)・特定の市場(IT市場)に偏重しています。IT市場は市場規模の大きさが魅力的な反面、製品のライフサイクルが短く販売価格の下落が進みやすいという側面を有しています。新たな製品の投入、今後世界的に成長が見込まれる市場への進出によって、これを是正していきたいと考えています。産業資材事業は自動車・家電分野を重点市場と定めているほか、デバイス事業においても自動車・産業機器・ヘルスケア分野などIT以外の市場への事業展開を推進する予定です。またガスセンサーおよびマイクロニードルパッチ製品の事業を展開するライフイノベーション事業は、医療・ヘルスケア分野など当社にとって新規市場となる分野をターゲットに定めています。



2 不採算分野からの撤退

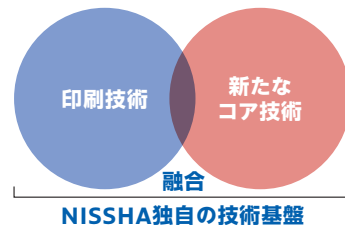
「組み換え」を実践するに際しては、新たな事業や製品を一日も早く立ち上げることが必要ですが、その一方で、キャッシュを生むことが難しいと考えられる事業や製品については、規律を持って縮小・撤退の判断を下すことも重要です。事業や製品の置かれている外部環境をしっかりと見極め、より成長が期待できる分野に多くの経営資源(ヒト・モノ・カネ)を配分する予定です。

3 サプライチェーンにおける垂直統合の推進

事業を拡大する際には、当社製品の上流工程(川上領域)あるいは下流工程(川下領域)に注目することも重要です。たとえば産業資材事業では、私たちの転写フィルムが使われる次の工程である成形事業に進出することによって、重点市場と定める自動車や家電製品向けの分野をさらに拡大することを検討しています。また、デバイス事業のタッチパネルやライフイノベーション事業のガスセンサーについては、部品としての供給にとどまらず、モジュール製品を扱うことで製品の付加価値を高め、IT以外の市場を攻略することを考えています。

4 新たなコア技術(中核となる技術)の取り込み

新製品の開発に際しては、当社が培ってきた印刷技術に加えて、これに匹敵するような新たなコア技術を獲得し、お互いを融合させることが重要です。こうした取り組みにより、当社は他社にはないユニークな技術基盤を構築したいと考えています。



5 M&Aを活用した成長

新たな市場への販路獲得、新たなコア技術の獲得、垂直統合の推進など、次の成長に向けた打ち手を迅速に実行するためには、M&Aは有効な手段の一つです。第5次中期経営計画においては、既存事業への設備投資を一定の水準に抑え、次なる成長に寄与するM&Aに重点的にキャッシュを振り向ける考えです。

第5次中期経営計画の定量目標(2018年3月期)

連結売上高：1,500億円

営業利益：120億円

ROE：10%以上

$ROE(\%) = \frac{\text{当期純利益}}{\text{自己資本}} \times 100$

ROEは、自己資本をどれだけ効率的に活用して利益を得ているかを示す指標です。

ROIC：8%以上

$ROIC(\%) = \frac{\text{税引き後営業利益}}{\text{投下資産}} \times 100$

ROICは、収益性の向上(=営業利益の最大化)と効率性の向上(=投下資産の最小化)をどれだけ実現できているかを示す指標で、NISSHAでは中期経営計画の進捗を管理する重要な指標として活用しています。

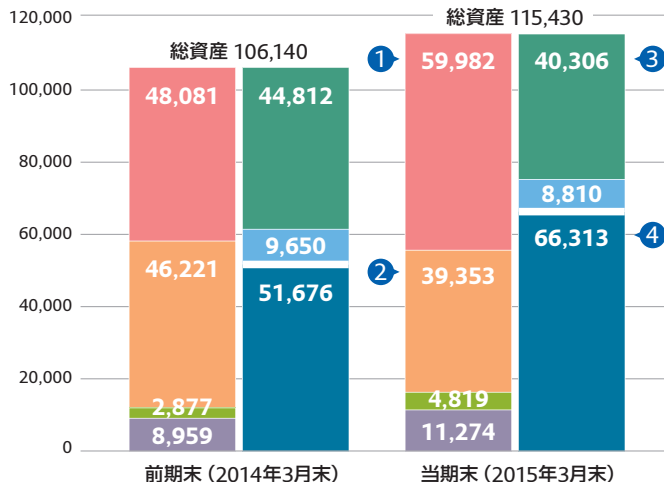
新事業・新製品の売上高比率：35%以上

2015年3月期 業績ハイライト

連結貸借対照表

■ 流動資産
 ■ 有形固定資産
 ■ 無形固定資産
 ■ 投資その他の資産
■ 流動負債
 ■ 固定負債
 ■ 純資産

単位：百万円



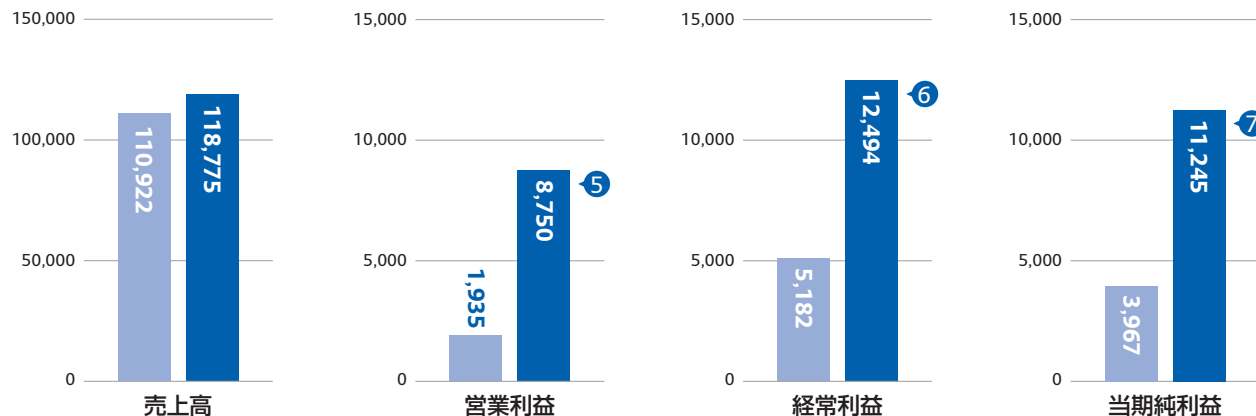
POINT

- ① 現預金および受取手形・売掛金の増加などによって流動資産が増加しました。
- ② 設備の償却が進んだことなどによって有形固定資産が減少しました。
- ③ 短期借入金が69億81百万円減少しました。
- ④ 利益剰余金の増加などによって純資産は146億36百万円増加しました。
- ⑤ デバイス事業の牽引によって営業利益は前期比352.2%増となりました。
- ⑥ 為替差益45億46百万円を計上しました。
- ⑦ 当期純利益は過去最高となりました。

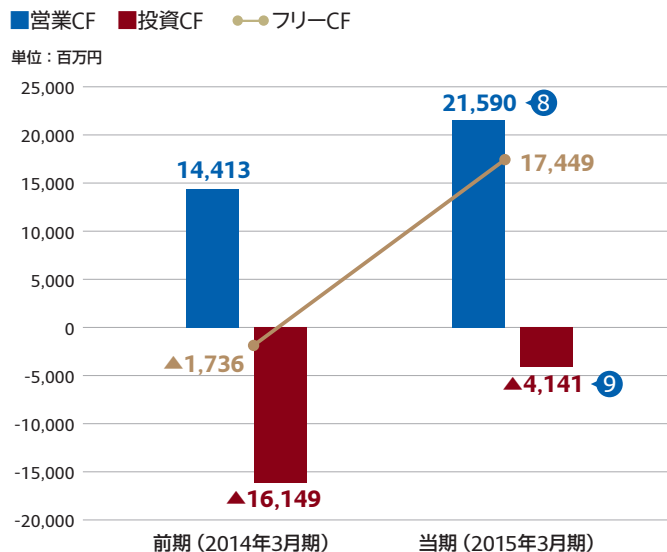
連結損益計算書

■ 前期：2014年3月期
■ 当期：2015年3月期

単位：百万円



連結キャッシュ・フロー計算書



POINT

- 税金等調整前当期純利益の計上のほか、減価償却費などによって、215億90百万円の収入となりました。
- 有形固定資産の取得および子会社株式の取得などによって、41億41百万円の支出となりました。

事業別の業績

産業資材	デバイス	情報コミュニケーション
<p>売上高 29,460百万円 ↗ (前期比11.6%増)</p> <p>営業利益 ▲235百万円 ↗ (前期は▲1,122百万円)</p> <p>重点市場と定めた自動車(内装)、家電製品向けの需要が堅調に推移しました。</p>	<p>売上高 70,266百万円 ↗ (前期比6.0%増)</p> <p>営業利益 13,594百万円 ↗ (前期比82.7%増)</p> <p>タブレット端末向け静電容量方式タッチパネルの需要が堅調に推移しました。</p>	<p>売上高 17,890百万円 → (前期比1.0%減)</p> <p>営業利益 ▲657百万円 → (前期は▲691百万円)</p> <p>主力の商業分野で企業の広告費圧縮や情報メディアの多様化による印刷物の減少などの影響があり、受注競争は激しいものとなりました。</p>

会社概要

商号	日本写真印刷株式会社
創業	1929年10月6日
設立	1946年12月28日
資本金	56億8,479万円
社員数	単体955人、連結3,596人(2015年3月31日現在)
拠点数	国内(関係会社含む)14カ所 海外(現地法人、持分法適用会社含む)25カ所

役員の状況 (2015年6月19日現在)

取締役	代表取締役社長 兼 最高経営責任者	鈴木 順也
	取締役	橋本 孝夫
	取締役	西原 勇人
	取締役	辻 良治
	取締役(社外)	久保田民雄
	取締役(社外)	小島 健司
監査役	取締役(社外)	野原佐和子
	常勤監査役	小西 均
	常勤監査役	野中 康朗
	監査役(社外)	桃尾 重明
	監査役(社外)	中野 雄介

執行役員	専務執行役員 兼 最高技術責任者	橋本 孝夫
	専務執行役員	加藤 精彦
	専務執行役員 兼 最高財務責任者	西原 勇人
	常務執行役員 兼 最高生産責任者	柴田 卓治
	常務執行役員	伊藤 壽幸
	常務執行役員	井ノ上大輔
	上席執行役員 兼 最高品質責任者	山口 秀則
	上席執行役員 兼 最高情報責任者	青山 美民
	上席執行役員	岸 圭司
	上席執行役員	面 了明
	執行役員	三田村正幸
	執行役員	久保 信夫
	執行役員	成田 健介
	執行役員	村瀬 俊司
	執行役員	礪 尚
	執行役員	西本 裕
	執行役員	杉原 淳
執行役員	渡邊 亘	

株式の状況

(2015年3月31日現在)

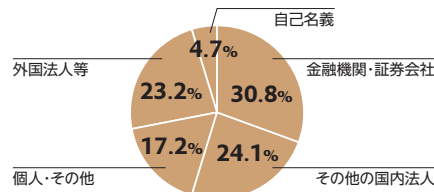
発行可能株式総数	180,000,000株
発行済株式の総数	45,029,493株
株主数	9,627人

大株主

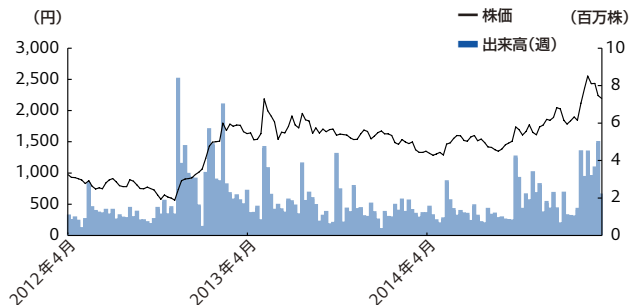
株主名	所有株数(千株)	所有比率(%)
TAIYO FUND, L.P.	3,360	7.46
鈴木興産株式会社	2,563	5.69
明治安田生命保険相互会社	2,341	5.20
株式会社みずほ銀行	2,076	4.61
株式会社京都銀行	1,442	3.20
ニッセイ共栄会	1,037	2.30
DIC株式会社	905	2.01
王子ホールディングス株式会社	894	1.98
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	822	1.82
TAIYO HANEI FUND, L.P.	752	1.67

*当社は、自己株式2,116千株を所有しており、上記大株主から除外しております。

所有者別状況(保有株式数比率)



株価



株主さまアンケート結果のご報告

2014年12月にお送りしました「第96期中間報告書」のアンケートでは、662人の株主さまから貴重なご回答をいただきました。多くの声をお寄せいただき、誠にありがとうございました。株主さまからいただいたご意見をご紹介します。

Q

「報告書はコンパクトで読みやすいが、できればもう少し大きな文字にしてほしい」
「報告書の文章にはカタカナ(外来語)を多用しないようにするか、意味を補足するなど、分かりやすく表現してください」

A

株主のみなさまに当社の「今」をより分かりやすくお伝えすることを目指して、「Business Report」は「Nissha Today」にリニューアルされました。読みやすく、分かり易い紙面づくりを目指します。

アンケートご協力のお願い

株主さまからのアンケートへのご回答は、当社の経営やIR活動への貴重なご意見となっております。今後ともアンケートにご協力くださいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

Q

「特集『ガスセンサーで新たな市場を切り拓く』を読んで、これからどんな事業を開拓していくのか、とても興味がわきました」
「ガスセンサーの事業が今後発展することを期待しています」

A

ガスセンサー事業にご注目いただきありがとうございます。FIS(エフアイエス/日本写真印刷の子会社)が手掛けるガスセンサーは現在、口臭測定器、アルコールチェッカー、においモニターなどさまざまな製品に採用されておりますが、今後は来たるべき水素社会に安心、安全をお届けするとともに、ヘルスケアや先制医療といった分野にも積極的に用途を拡げていく予定です。ぜひ今後の展開にご期待ください。



FIS経営企画室長 清水博子



表紙の写真

今回の表紙の写真は、溶解性マイクロニードルパッチの研究開発風景です。

溶解性マイクロニードルパッチとは皮膚に貼るシート状のパッチで、ヒアルロン酸やコンドロイチン硫酸などの生体内溶解性ポリマーを材料とした微細なニードル(針)から形成されています。皮膚内でニードルが溶解することで、有効成分を直接補充・伝達することができます。溶解性マイクロニードルパッチは、2015年4月より新たな事業としてスタートしたライフイノベーション事業が取り扱う製品のひとつとして、ワクチンなどの医薬品投与や浸透性の高いスキンケア化粧品などの分野で製品開発が進められています。

株主メモ

株主名簿管理人および
特別口座の口座管理機関 東京都中央区八重洲1-2-1
みずほ信託銀行株式会社

株主名簿管理人
事務取扱場所 東京都中央区八重洲1-2-1
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

各種お手続きの
お取扱窓口 お取引の証券会社等/特別口座管理の場合は、
特別口座管理機関のお取扱店

特別口座管理機関
お取扱店 みずほ証券およびみずほ信託銀行
フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝を除く 9:00~17:00)

未払配当金のお支払
みずほ信託銀行およびみずほ銀行
(みずほ証券では取次のみとなります)

単元株式数 100株

公告方法 電子公告(<http://www.nissha.com>) ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います

上場証券取引所 東京

IRカレンダー 事業年度: 4月1日~3月31日

第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
定時株主総会	中間配当基準日(9月30日)		定時株主総会の議決権・ 期末配当基準日 (3月31日)
4月 5月 6月	7月 8月 9月	10月 11月 12月	1月 2月 3月
通期決算発表	第1四半期決算発表	第2四半期決算発表	第3四半期決算発表

IR情報に関するお問い合わせ

日本写真印刷株式会社

経営企画部IRグループ

〒604-8551 京都市中京区壬生花井町3
tel.075-811-8111(大代表)

NISSHA

NISSHAの事業

NISSHAは印刷技術を基盤に4つの事業を展開しています。

■ 産業資材

産業資材は、立体形状のプラスチック製品の表面に成形と同時に絵柄を転写できる加飾技術、IMDを主力製品とする事業です。IMDは、自動車(内装)、家電、携帯電話など幅広い製品に使われています。また、プラスチックだけでなく金属、ガラスなども対象として、その表面に加飾や機能を付与する独自技術を展開しています。

■ デバイス

NISSHAは中小型タッチパネルの分野で世界トップクラスの技術を誇ります。NISSHAのタッチパネルは、タブレット端末、スマートフォン、ゲーム機などさまざまな製品に搭載されています。押した圧力の強弱を検知するフォースセンサーなどの新製品開発にも取り組んでいます。

■ ライフイノベーション

ライフイノベーションは、人々の安全・安心で健康的なライフスタイルへの貢献を目指す新事業です。現在は、ガスや呼吸などの気体を検知するガスセンサーを提供しています。また医薬品と化粧品を対象とする新しいDDS(ドラッグデリバリーシステム)の展開を目指して、溶解性マイクロニードルパッチの製品開発を進めています。

■ 情報コミュニケーション

情報コミュニケーションは、企業・団体の情報発信やコミュニケーションをサポートする商業分野、出版物を手掛ける出版分野、文化資産を次世代に承継するデジタルアーカイブなどを展開しています。NISSHAはお客様のパートナーとなり、コミュニケーションに関するさまざまな課題を解決します。

ご注意

このNissha Todayに掲載されている情報のうち業績の目標、計画、見通し、戦略、その他過去の事実ではない情報については、現時点で入手可能な情報に基づいて当社の経営者が合理的と判断したもので、リスクや不確実性を含みます。実際の業績は、経済動向、市場需要、為替の変動などのさまざまな要因によって大きく変わる可能性がありますことをご承知おきください。このNissha Todayに掲載されている業績に関する記述は、特に注記がない限り、全て連結ベースとなっています。

